

全国首長九条の会ニュース

2020年5月3日 第4号 祝憲法記念日 ●発行責任者：事務局長 鹿野文永

●連絡先：〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル 303 九条の会気付 ☎03-3221-5075
fax03-3221-5076 メール：sppn3av9@hyper.ocn.ne.jp 口座番号 00190-4-635731 (全国首長九条の会)

自民党、連休明けに衆院憲法審査会開催ねらう！！

コロナ感染拡大の中、自民党の新藤義孝与党筆頭幹事は4月23日、与野党幹事懇談会の開催を野党に呼びかけ、野党はコロナ感染拡大防止が最優先として応じていません。自民党内には「大型連休後に野党抜きで開催すべきだ」との強硬意見もあり、予断を許さない状況です。

4月21日、元神奈川県平塚市長の大藏律子さんが地元9条の会の働きかけもあり呼びかけ人になってくださり、呼びかけ人・会員は131人となりました。また会費も53人の方々から納入いただくとともに、お二人から多額の募金もいただいております。

今号は共同代表の元高知県四万十市長の田中全さん、現職の滋賀県日野町長の藤澤直広さんと鹿児島県曾於市長の五位塚剛さん、そして元新潟県魚沼市長の大平悦子さんの投稿です。

非戦の原点

元高知県四万十市長
田中全

わが地元の先輩幸徳秋水は日露戦争に反対し非戦論を唱えた。(平民新聞)

吾人は飽まで戦争を否認す
之を道徳に見て恐る可きの罪惡也
之を政治に見て恐る可きの害毒也
之を経済に見て恐る可きの損失也
社会の正義は之が為めに破壊され
萬人の利益は之が為めに蹂躪せらる
吾人は飽まで戦争を否認し
之が防止を絶叫せざる可らず

秋水は人間の自由・平等・博愛を掲げたが、明治国家による思想弾圧(大逆事件)で抹殺された。「百年のち誰か私に代わって言ってくれる者があるであろう」の言葉を残して。

その百年後の2011年、私は市長であったことから、四万十市をあげて幸徳秋水刑死百周年記念事業に取り組んだ。市長退任後も幸徳秋水を顕彰する会事務局長を務めている。

秋水たちが命をかけたたたかいは、戦後日本国憲法として結実した。永久平和、戦争放棄の九条は非戦の原点である。しかし、いま再び国家権力



が牙をむき出し、九条を亡きものにしようとしている。

私は非戦の原点を守るために「絶叫」を続ける。

宣誓書

滋賀県日野町長
藤澤直広

今年の桜は、暖冬のためか早咲きでした。恒例の入学式や入園式が満開の桜のもとで行われました。いつもと違うのは、新型コロナウイルスの感染の広がりのため規模が縮小されたことです。

日野町役場でも新規採用職員の辞令交付式を行いました。希望に胸を膨らませ、緊張気味の皆さんに辞令を交付しました。役場職員となるためには、宣誓書に署名しなければなりません。宣誓書の文面は「私は、ここに主権が国民に存することを認める日本国憲法を尊重し、且つ擁護する事を固く誓います。私は、地方自治の本旨を体するとともに公務を民主的且つ能率的に運営すべき責務を深く自覚し全体の奉仕者として誠実且つ公正に職務を執行する事を固く誓います。」です。宣誓書を提出した職員に対し、憲法15条2項にいう「公務員は全



体の奉仕者」とは、職員は住民に奉仕するものであり、町長に奉仕するものではないことを必ず話します。戦前の公務員は天皇に仕える吏員でしたが、現憲法では主権者たる国民に仕えることになりました。政府において、森友・加計、桜を見る会、検察庁人事問題など、「首相を守るために」改ざんや隠蔽が行われたことは、痛恨の極みです。戦前、役場には「兵事戸籍係」がありました。「役場職員は再び赤紙を配らない」ことを肝に銘じたいと思います。

平和主義、国民主権、基本的人権の尊重、憲法のすべての条項をいかすことこそ、平和で民主的な社会をつくる道です。憲法を守り発展させるために力を合わせましょう。

日本国憲法は宝です

鹿児島県曾於市長

五位塚 剛

私は、現職の市長です。市長の役目は、市民のくらしと命を守ることです。

そのため、税金（予算）の使い方については、市民が納得できるように、十分に説明を尽くすよう努めております。

日本国憲法は、私たち地方公務員が、最も大切に守らなければなりません。

私は、中学時代に社会の先生に、日本国憲法の前文を暗唱させられました。

全ての生徒が、全部覚えるまで勉強させられました。そして、戦争は絶対に、二度と起こしてはならないとも教えられました。

世界の中で、日本だけが広島、長崎に原爆が投下され、多くの国民の命が奪われました。そして、今でも苦しんでおられる方が多くいらっしゃいます。

私たちは、自分の子ども、そして、未来の子ども達に、その事を伝える必要と義務があると考えています。よって、日本国憲法は守らなければならないと思います。

今、新型コロナウイルスで日本をはじめ世界的に感染者がふえつづけ、死者も4月27日現在20万人と発表されております。原因を解明すると同時に政策の強化が求められておりますが、政府の対応にたいへん心配しております。



月間7億枚のマスクを生産確保と言っているのに、まったく店頭に出てきません。私たちの地域でも最も必要な病院、消防署の職員のマスクが底をついております。国民の目の前に事実を知らして欲しいと思います。

自治体の長として、市民の生活と命を守るギリギリにあると思っています。

戦争で幸せになる人は いない

元新潟県魚沼市長

大平悦子

私の魚沼市長最初の事業が「広島平和記念式典派遣事業」。若い世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを知ってほしかったのです。事業に参加した生徒は後日体験発表をし市報などを通じて市民への報告も行います。この事業は現在も継続されています。

2015年は太平洋戦争が終結して70年の節目の年でした。市報で特集を組み、戦時を生き抜いた市内16名の体験者から話を聞き、紙面で紹介しました。その体験談はあまりにも壮絶なもので、「二度と戦争をしてはいけない。未来を生きる人にこんな経験はさせたくない」と体験者たちは語ります。あらためて悲惨な歴史から学ぶ平和の尊さを伝えていく必要があると考えさせられた話でした。

安全保障関連法案が可決され集団的自衛権が容認された時、私は自衛官募集のたれ幕を一時市役所から外したことがありました。このような行為は非協力的な自治体と見られてしまうかもしれません。しかし、「安倍内閣が憲法に自衛隊を明記することで、自治体に情報提供を強化しようとしている」と感じ、「二度と戦争をしてはいけない、反対しなければならない」という思いからの行動でした。自衛隊員の息子を持つ母親が、集団的自衛権行使容認は「とても心配で複雑な気持ちだ」と語っていたのが今でも心に残っています。

1月、東京高検検事長の定年半年間延長を法改正もせず、法律の解釈変更で閣議決定した政府。このような強硬な内閣に危機感を覚えるものです。

◆会員のみなさま、投稿をお待ちしています◆

